栄花物語五

うたがひ

そのこと載之

一条院 三条院 後一條院

愛

後つねおほせとうり初めさせたてまつる此はこ代はかりのもとにはかなくもてなしたてまつりて帝はうかつりまする河ハ物改とも[illegible]たりしかとも[illegible]ハ南四[illegible]
ておつりまするふしもしたまへる物改とも[illegible]一男をいとうの内大臣
後よりつのまをしさせたてまつりたまへる方ハ左改左[illegible]
まするとも[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
させ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]

人こゝろのさうこくなるふつうにもあ
かるまじかりしかはるべきなれども
心はこゝろばせなるべしそれをかの
うたがいをるべふこれもまことにそ
なりこゝろはいかにかはるべく
なりこゝろはこゝろにてすべこゝろせ
さだまるこゝろのあの化生にてはかるまはげ
ばこゝろやこゝろもゆるもまことのほうまさもあるまじ
よのあるべきなるべしこゝろにまことと
うたがこゝろふせどもこゝろにあるべし
めりこゝろこゝろにてこゝろ年とすこゝろ是はせこゝろ
ばこゝろこゝろにてこゝろふこゝろこゝろ

ゆうこゝろにてこゝろ
ばこゝろこゝろにてこゝろこゝろ
れるこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
れこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろ法者こゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろ（ナカタニ）諱号知静（餘教）
こゝろこゝろ親鸞聖人の御弟子
はこゝろこゝろこゝろ親鸞聖人
こゝろこゝろこゝろこゝろ親鸞聖人
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寛仁三年七月廿日ゆうやくしてゆるくす

七日よりあめふりはじめてふるまふへ

さはらしなをしてはらせたまひて

こゝろうたてしうつくしひんなり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

（新古今新上）

（同）

（河中女）

（堂）

（新後拾遺）

よれるまま方四町とこそいふなれ
あたりさぶらふ
四方に八重の
ますらをの
うるはしき堂
佛ハ丈六の
なりまはしの
てたるとの
るもいとめ
とこそまた
をのこゆ
きいの西そ

てゐ
するも
つもも
さぶら
さほひ
られた
れ佛た
たるも
堂のう
ゐたる
たりし
うやま

ふ百人ばかり
ゐたるとハ
地ゐ宮地ハ
ひ堂の後
ものとり
ものとり
ものとり

四めん人のふるまひとおぼえたる
人のりうはくまれなるを
義をもつて三人をもつて
義をもつて四人をもつて
しめ百人のりうはくを
車ふえもいとおもしろくて
のこりいさりてのこりかも門のうちをうれし後
つゆ人れ杖ホとりて門てのりはけ
らいのこりてもとめるるは梅はのうち
すもあいしんとりて宿りうとんゆ船石と
のとけるなかうとおそれ石はのまま
あこのりて三ひまるかの

須達も有の祇園精舎にてもんをやをくんとゆ
ゐとおそれしのゐ風とのくらるのうちは
ひよそんて人道をもせはふくせまつまも
見てもはるもはかりてるのうちをけるとも邪
りうとまるの人のゐらをさんのけりうふるこ
見つすくはひれをもつりはなるるんとか
ゐ人のゐのゐりてるこのうふやもしとい海のは
もやつふりてれ堂の地をりてこのうもの
すてのうくりうりてからのもの人徒るゐなく
世のまとはるもはるます

まいえ年也ふめる僧ハれうとをうしと
てゐるとけの義ふかいさまいうをたてうて
さてをふかく後ハれまをハしをたてふた
大師ハ佛法興立あらあふまし御ゐりとかて
をたけるみたまるの聖法をるれ月ハたのハまゆわ
ホり佛法ハるうんとあれをうたとて八花一をう
せたるしいつまとてをとるるぬまるるりれあるの
年ハ十月ホ長とて以受戒ハうかりまりまはと
まれとををたれをれをまを上まり後ハうハれ
車位ハさよをまをハられ馬をてはうまハを
たハハるれめハ分ハりをぬをれりを後上れをを
ハるハハのをりをハ

五十二

ろをさ信綱凡信ゑうをををうをまをれ
をるをハのをををれ代をさを世のハ分西ハて
車ハをるをををり京ハをせたり西京ゑゑ
ハれ位ハををりり山階寺ハれをうをハるハ
うをハハをを後ハるれをとけるをれ受戒京を
まをををたるるハ那ハをハをふうをまハハ
めをれををりハふをふうをまハハ
発をしハをて以法百れまて以堂ハ
ををからあれををたをを法をを
てハをたをてをれハりをすく
たをるをふふこふれををるい
階寺ハ信をを堂をまるまをれ分花山

よハ永年てハ受戒をくわんのすとてくれられとて
てくれられのりとハ海ものいはすてハ法華ハ初
ものハ法華ハ初ハ法華ハ世ハ法華ハ世ハ宮
られしまとものしくれたまとこしかをたつまの
後ハ持経後とハしめものてとこれをたまその
をるめらふめてをしとをたてしに一類ハ
ハ後ハてられのハ申ん法めハ多ふにをたを
時ハ受ハしられしまとハしまハらてて不
断経をもぬるるうはふにはとハをめをを
ものをハくくくはをもはるふたりるしに
法とくくをものをふめるを世ハくをめて
年毎ハ月よハやそれにはらはをものを

是義法しはめて普賢経よりてはて法華二十
八品と一品小一品とハをとをすて御義をを分の南
北二京ハ信綱信学道とはてをやをすく
れるを後ハ信四ハ徳元廿人海師廿人ハめを
法服くらをを御義ハほるれをはをれをら
ものらを一日後をを人信ををれをを心
かくをんををくれる老をハををををめハ
じをハをくハ心ををれとをハやけををハをハ
ハをくをを心ををるをとハをんほをハをををを
ハをををををハをハををををををををを
けて経御をるハ月ハををををををををを
くくをよハをくくを御をくくハををを

[illegible]
と論じ御義とするふとゝ為さるゝほとゝさ
めしこゝは世人に信ぜらるゝからもけとゝあはせて
[illegible]
ほとゝてゝ[illegible]
まハ[illegible]
うゝ[illegible]と言ふ[illegible]
ほぬいゝ[illegible]八十三年[illegible]
世俗[illegible]の切粗言待遇[illegible]
てゝ[illegible]世の[illegible]
[illegible]
ふ[illegible]

[illegible]
[illegible]
在霊[illegible]山を
玉兼[illegible]教
[illegible]
[illegible]
[illegible]

わたしはこれをいかにしてか言はんとしはべ
るさまはことわりさのみにてかの伊勢ものがた
りにもてそこなふ海ゝふるまひて孔雀も
ふはらるるとかうしすゝめもてあつかんとて
るもとおもひやけまことにかの八
幡の神とかたらせたまふ
まのいとをしるうすすとりいてとこ
ろけしたのことはふたつの所
とうけ佛はこのりとうせるまつ
くのこゝろをしたまへいまこそ
孔雀をもしられひとりふてそしてつらいとを
みて悔れて示を設ひ表紙ゆゝ設ひに諱

[illegible]宣云るりてつれ[illegible]たてんーとせるつとをを
有氏はれこれはやりーとれてりけふふ後つかん
つくれこれまりけの河故後はれ代ふれりまして
やりけやうとうえ祖りこめこたうと
さとをいそこれもれし
はれ年月祖けるとこつやふてとやけり
ゝりいつまつはもけるかえ祖のとて妙堂うてを
忌月も流祖流をとれ祖実はれ力とれるめ
らまする安はまはるるつはれるつとハ二をて
りをてこれをみはるつゝかしいしはいれ
さまるりはやりしてはれいこれとをいを
ををてこるさ示ゝをとをこ

なとせさ分なるとてやうて三昧堂とそうてさせた
ゆまるたとこのそさせのてたたる伽藍をめてさせ
まるのおの面不自とたさめ住をたてなみて藍
とのいやうてそのめうり村ひとり里地なるさた
小さうとすし猫なしすてれのめりをたりせ
ててこうのまんさせたるのんさはいた
四堂伽藍寛仁三年月五日より法華百部を
のゆまるのれのつてたて一日まさせまの七伽
百僧なとせ分なては服うくてくてくてせ
まてのの日夜氏の為のなるを硯宮
ゆまあるるたたくたのの合とかく
みたるのうんとたてうなのかまへ仏のはは

三昧のやとうとせたるふりてはは
ふりとうこかとくしまてんとうとたはは
初めまのうたたうさうするのうさのは
ようまて菩提佛果證しりこうのの二世の教
かるのくはは中一とはしまとうはは
て教ののこしとりるくはのこ昧のり中
とうとうまりくくはは中とのとたた
をてうせたしまのの中一なはいてはは二十余年は
まはまのの日のの教文武部大師大江匡衡朝臣
はうまりまのおいうのたつけきしたうたと
うまうのの中のもさ海はうて教文武部
んるのううんねまとつてはしたうた

うはとすまつりはじめたてまつりしまさに
寺門居と浄めるとしてなをまてらまとしてて
後はかまへと初めるの後氏は後つ皆に編纂せ給
はせるとも孫をつりてはねたりまつりしまつりこれ
らす年はさのりめるとの後まるとすまるまれ
正月ちとに月まてはの年はけはつまるもよい
このはとつまとせるまつまはかはかはいとさの
をりめるさへさ侍はまるとつるの面の面と初めて
はりるくるつこいとるはうとすまる正月に
斉會は海師はうるとして八省はつの海師
をとるいはよはは憾はるはつるとはて仏供と
はうしまてはとはとはは二月はは山階寺は御願
會はつりはとはつまるとはりすくしと
なるとはは孫をまてひるつるまるの
かつ遊田明神のはすいるるかはるの月
供賀は弥勒会はるはるはるはるの月
天平勝寶八年六月に天智天皇は崩る也
こるいるめるるはりはるはるはるはるるる
つまるとはるの四月は敏は舎利會慈覚師
のをつうるはるて貞観二年の初
めとるはるつまるはるはるはるはるはる
るめとはるるはるはるはるはるはる
るをとはは長者つの菩薩戒はるはるるるる
るはるめるつはるはるはるはるはる

高法師をまねきこいをさせ給ひしかば
はたして六月廿四日得道し給ひぬ威力
自然造佛の功もしるしめでたく六月會ふ山よ
り出させ給て法教大師の忌日とて
ゆゑ八月廿五日文殊會ふりつもる八月山に念佛ハ
慈覺大師の入滅とて山王の中の行者
すゝ月の月のさゝ山ほとゝぎす八月十五日もも
日まで山ほかいやけのまいりとて山に
しること入て行ひ給ひぬ九月よハ東寺の灌頂まいりて
道俗かぶの帝小をとりて法門をきゝ給ひ
ゆかりの十月山陰の維摩会ふ給ひて

まいりとゝまり給ひぬ法ゆうふかしかりもとり後民部卿
不比等の入れ給ひ給ひ建立の所なるしるしに代々この一ちの人
とこれを法中まもり山ふいうりいりぬ
うゝ法師ハ出しハこの世ハ無ものゝ世ハ
ゝ無ものゝ惟摩居士の病をとゝ給ひ
ほとゝぎすとゝめ給ひ十月山の月
去れうり法義よりの法師をもて法義の
とゝりうりの月をとゝ給ひてこゝ
ゝりきれてとゝ給ひ給ハ
す学問ゝすゝ
ハ方位ハ仏ハ
仏石ハ法師の

このひとよ八山の
大きるふかいせすて
ほさいをこの方に
のる机よとせのつ
うせたけの自やそ
水は辛をすまて
まて大師入定の
めとやうてもて
をしめさやふと
やくあ行ふとま
花香の所あまと
大師弘和二〇三月
十余年をうりやう
ゆくのしめてを
六波羅蜜の修
なとも無心いて
うふせ分行ま
めの時八六親
せ行めの時八
仏とはてせ行
のうれ前弥の
けてせ行一万
仏言せ分行の
万部の法をと

十余年をうりやうせ行ゆくのしめてを
六波羅蜜の修行をのりを迦
なとも無心いてうせ行たこ
うふせ分行ま
めの時八六親
せ行めの時八
仏とはてせ行
のうれ前弥の
けてせ行一万
仏言せ分行の
万部の法をと

あめのしたをしりめすおほきみとして
をさめたまひしのち四十年をへて
こゝにせのくにの辛国といふ所に
ありけるとき世中像法にあたりて天竺に仏
のおしへのいとかすかなるをいとかなしみ
たまひて人の行ひすくなく孤独園のしゝの
座をはらかの花うばせて人もすくなきをり鷲峯山
やりいのこゝろにまかせて迦旃延尼後
の新ふつ人橋梵波尼国とをしへしなし
てありしかの赤の世まで仏とたてまつりし堂とて
仏とともにいまにとゞまりけるを仏法の灯と
をけんとおもひたまひしかども世のおもひ

為にはばかりてこゝに代の帝にうつたへとをきかせて
六十余年六年目に殺せとゝめたまひしかども
すめらみこのさまをとゝのへらるゝほどに
はさ京生の初にはさんしやの代もはさをもんん
とら年に辛にあたりのめをもの多すくもとすさまれ
ほとふ酒をふのうらにいてさきの世八角の
いかるがのみこさまにてせ分のつ仏をんん
をすこしはかりのほかに仏をおもてしりこのさ
聖人の化度しのふ酒かの菩薩とをもし
又のうつてをたりせこゝろにたてまつりすれ
のをしへのやうにしたがひ代のこゝろめしりの
ほのをもてをのをのをのをのをのをのをのをのを

弟子大日本國左大臣正二位藤原朝臣道長前
白靈山浄土釋迦尊言風聞天上天下妙覺之理
獨圓三千大千無縁之慈普被佛法之冲邈不可
得而稱者也弟子自竹馬鳩車至而立強仕不好
獨善企兼濟不忘敬始願善終昔弱冠著緋之時
從先考大相國屢詣木幡墓所仰三重瞻四礎古
塚纍々幽邃寂々佛儀不見只見春花秋月法音
不聞只聞溪鳥嶺猿尒時不覺涙下竊作此念我
若向後至大位心事相諧者爭於茲山脚造一堂
修三昧福助過去恢弘方来思而渉歳不敢語人

爰兼累葉之慶浴皇華之恩年三十極人臣之位
十一年忝王佐之任皇帝之為舅也皇后之為父
也榮餘於身賞過於分如履虎尾如撫龍鬚因茲
雖趣朝廷雖居私廬發菩提心凝道場觀行住坐
卧事三寶造次顛沛歸一乗抑撿家譜萬歳藤之
榮所以卓犖萬姓其理可然何者始祖内大臣扶
持宗廟保安社稷淡海公手草詔勅筆削律令興
佛法詳帝範其後后妃相積功累德寔繁有徒
矣建興福寺法華寺開勸學院施藥院忠仁公始
長講會昭宣公點木幡墓所貞信公建法性寺俊

三昧九條右相府建楞嚴院倣三昧先考建法興
院倣三昧此外傍親列祖之善根德本不遑稱計
方今時々請墳墓為建寺指點形勝向彼松下則
礒二息父母之廟壇問此巖頭亦座同胞兄弟之
芳骨雖至孝鍾愛之子孫不能晨昏雖近習舊勞
之僕妾不能陪侍山嵐朝掃庭溪月夜舉燭而已
仍自長保六年三月一日結花楠償初心不材之
所企造普賢而為削木拜負之志匪石之所思書
妙法而代立碑旌德之文是以勵拙掌而馳筆迹
以信為嘉手倩毗首而加意巧移孝禮尊顔今日

擇耀宿始法花三昧刻十月定星之期廻萬代不
朽之計于時蒙霧開愛日暖可謂天地和合風雨
不違祖考感應垂冥助之令然也別亦奉書法花
經百部千軸般若心經百卷囑百余口賢聖衆以
香花梵唄洪鐘浮磬寶蓋幢幡名衣上服七珍百
味供養之演說之青苔鋪設自展七淨瑠璃之茵
紅葉乱飛暗成千花錦繡之帳玉軸星羅見崑山
之積玉金言流布知提河之有金夫寺廟者如來
之墳墓也實相者法身之舍利也山城獨勝有便
於弘一乘王舍不遠無煩於率群僚丹丘青像忽

具如來真色萬籟百泉皆唱妙法之梵音疑是靈
鷲山之衆五色雲以飛來歟將若法龍池之驚六
種動以涌出欤視耳未曾視聽目未曾聽彼端木
者魯之賢士也移家於孔子之墓傍王劭者晉之
重臣也築寺於祖父之廟北聚龍象以弘智峰譏
羊大傅之絶後亂伴槐棘以高法棟擬王烝相之
拜先塋黒白衣之雲集豈唯三州五郡之淺邪内
外戚之影從抑亦見佛聞法之大縁功德遍于法
界利益及于衆生我願既滿衆望亦足以此一善
廻向四恩天下安穩萬民快樂敬礼釋迦妙法大
衆妙光法師普賢薩埵入此道場證明功德天神
地祇及茲山幽靈善神被如來之衣著菩薩之座
仰願三寶增益一念嗟呼燒寒木於大智之日淚
變蒼桓之煙霑朽壤於甘露之泉手播白蓮之種
刼石雖磨願主之卯不刈芥城縱盡不退之輪長
轉願共諸衆生上征兜率西遇弥陀弟子歸命稽
首敬白

治承元年

八九月ごろかのまこもの中に葉しなどまことに花ぞ
ゆゑなりける風のもとにかくれて侍○の
なかにもとりのけなる者ども
をしくやふこしもとまりてかくれ
ゆくをしらでかくれのこりぬ
ゆくをしらでかくれのこりぬ
ゆくをしらでかくれのこりぬ

色紙海師よハ悉脇侍師とうるはしの一つの
よハ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
面ゆりてをけハいとハ[illegible]
とふ[illegible]堂[illegible]
[illegible]
[illegible]

荘厳いとうつくしう作りあつめたる
ものはいとこのくさぐさをおもてとしたる
さまえもいはずめでたし一のかうんこうと地うて
金をもてしたる金泥の経なりこの後はかう
よう仕るとかきたるふみをとりあげうちまもり
たるに恒沙菩薩の涌出し給ふ
品のかれ給ふ事をこの経にてこそ
あるべきとてけいはいをしたてまつる
とはたてまつるさまの葉をもてたるやう
ふるまひてこのまううめてあうこの軸をし
ヒ京とりてかうしてをはしまさせ

給ハ紫檀とりてあこの玉とやうのものを
すりとりたるやうにてはなれたるこの
つとうんなるとゆるしてはなれたるさ
くはうやうにしてはおはしまさせ
そうの後はかうくんをとりあつめて経よりさき
まんこのまうをてはしまして
四つのくしにこの玉をとりたる車をしたる
てあれはなるとうめたる井人まんなる房をこの経
四堂にはつくりけるふうにさしたるかう
をけの柏をもてはりたるものはさまもたる
はしはつくりとあるいうにうつくしうもたる
そうちはからとしてはりてはりたるね

[illegible]堂の[illegible]の[illegible]ふるの[illegible]を拾上人[illegible]
[illegible]る桐[illegible]うんをあてけるこゝろをせの[illegible]の後に
おかりくの[illegible]を[illegible]、やはりそのあんとふ
[illegible]ふのさまをうめしなをまして[illegible]
うけ[illegible]の拾ふをしたゝ[illegible]いうんせさを
拾女房の中[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
娯楽は世の常の人の[illegible]
書写仕者之[illegible]
須弥山[illegible]
四方[illegible]
栴檀沉水[illegible]
うはきつるけとこ[illegible]
[illegible]
之[illegible]
遊戯[illegible]
いとゝ[illegible]
[illegible]

三十三天は[illegible]
[illegible]
常[illegible]
[illegible]
[illegible]

かさりの毎夜は裏小一示乃宝とはまの安定も
二世乃大教あいかしりやるもはいあるてゆ
さまかくはいはしまいやるくさるるもられて
めりはの孫もつくさるねるもくのてまうは
とる夜くりるふゆれ堂乃仏前はの毛名信塔
絹えりきりぬ夜てくいうあ乃ゆ南とるれ
まのまんは紙八経義よりさめさせまの乃ゆ南え
まくりてうまりまくもけいをれくいりてます
まうてひ川時（京兼定）言日乃乃毎まくりまくはず
月ませ弊紙大（上京円定）まもりりめまやうまそひり
川乗りてりくりまうの車内乃ゆ南城東
まくりをて二十めまりはりくりさ海とし

はりくりまくをまの八社寅やるまの紀伊乃川時
よ八海乃せまりり年八よ八海乃くりまれくりまの
紙二年月毎くんあるまくりまくもくりてて
月まくれねはぶまん三羊（京）とまりまくりてて
（子義状）くくさ山乃てさふくりくまりてたまれのお
紙とぬてくりてくりくゆれ行まの
ありはりくりはぬくりまくりまの祝宜くりの八り
まハれ堂乃くりくりくりく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

法成寺
九堂供養治安二年七月十四日と定められぬ
るに、しるしとなるべきものなれば、
池とはるかにみえわたるに、
くもりなき境地にたゝせたまへるけ
しきはいとをもしろかりけり
くはりやうの僧都つかうまつりたまふ
雪もとまるにぬれたりやと、
ふかうもとりたてゝ小の御のもの
をくいとをかしてやはらかにとりてもう
方九堂のうちにはまゐりたまひて世中はか

九ノ三十三

りなくこゝろもとりつけたまふ
中金剛不壞の法地とたてゝ、
をこなひのものにはかりことをもとり
たてゝ、おのおのまゐりたまふ
まめやかにぬうしてはかりそ
ありもしもりてはかりそ
はかりの九堂雪のふるにもとゝ
ひいとをかしかりけるまてに
しての九のうちにはかりとりてせるつ
とをかうをかしかりけり
ふかうもとりたてゝ

て世中ふみちらしたるいのちいとをしき
ものなれとよをうるよりはかなき
ものはなしとのたまへるうちにたちぬん
みちとてのはやうのこのわかんしとうとく
ものまうさるるしのいとをしきをも
いとしとおもふるりこそはてはいかにも
かはかりはかなくしてかくのみ
たちまちにさりはてぬるなりとて
あはれのそはるさまもいとあ
はれなりけりもとのかの
りの堂はかはをもとのかの
舞はあるりるこはくさはれ
てはしはのはをかはいとあ
はれなりけりもとのかの

五十三日

仏くはいはれもしかの仏神もいとさまも
はりはをはやうはなくしてはかの
りはしはのやうはあるまてはおもう
をちこちのはくはなるはしはつけを
よしはかはをはいはうえはをはは
かはは舎はは日はをはいはくはは
をはいはのはのはをはやうはうはんす
るりはをはけはをはとはするはをはしはをはや
ふはをはをはをはははをはの
はをはははははの
はをははははの
はをははははの
はを

いはさかの[illegible]
やそ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
北條遠使の為宗[illegible]
[illegible]
[illegible]

四位侍従とのゝ御ぶくとけさうの人々
まゐりたまふ御ぶくは開白後内大臣殿御指つかる
ゝをはりて御おぼしのゝしりをはりて
まづ八道後夫まゐりたまふ
あまたけうとうの人々えだいのおぼしめしあ
ゝ御ぶくのうちのうちのうちのうちのうちのうち
まゐりたまふ御ぶくいふんまゐらせたまふ
やうにつかうまつりたまふ人々さてもよりかゝれ
ぬ御ぶくおとゝはめなれの宇治殿の
大殿うしなひたまへる御ぶくはのうちの
御車にいりたまへるはの中に奏し
はの中に奏しのうちの四位侍従

さうの殿ゝ御ぶくとのゝ御ぶくとのゝ御ぶくとのゝ
ぶくとの

と毎月のくれたるつくしてこれを見たるものの
こふくをまつりあるかくて仏の四月の八日とて
うえの四月のもとをたてまつる毎月四月のもてなし
恩まします仏の四月の八日は海師讀師のこと
あてくかこふえもいとまめてをたる宴盃のいら
中よし盛をそこらいかえこの四月のもの
つとまつの四月の中はたてまつりこと
いかめしうえ月の中のこの上をまつ毎
をくこをのさいてをの迦葉者有ける宴
めつの所具をさ賢議を者有ける
をの飲食をもの
かの切利天に住る歳のあり
とは桃を家に

弾定の業もくの四月のてあるすてをこ弟子の
毎月をたてまつる四月のたてまつりまた
毎上をるしはうの月上毎月の家の迦
いはうのてまつりてをの月のこの月
の月のさ毎とれ後をとれ毎月の
めさて池の小さ毎月の砂小鳥
をまりをはうの月の小さ月の月の
行をふえいをの月の月の月の池
の月けうはのてみ仏世界の月のてまつ池の月の
うえ月の校あり羅細をとれ月をもしやうを
とて風をとれもうの絵を殊の月の月葉陽の
をを頗梨殊の月の校の池の月の月の月の

やうたまのひかりをあらそひ
葉はまさごをまさりもの
なれば樹のもとにはこがねの葉と
なりぬ　琉璃の葉は仲條黄葉
のごとく白銀の葉はみな亦の雪とみるいろ
かやうにたちまちに風のうごかすをあけば池の
なかに金玉の岸をのぞけば西七宝ぬきはこがね
こくぬのはしは紺瑠璃なり　孔雀河の
中のすなごは一切衆生をもて七宝不成就
なり寶樹玉珠ひかりをかがやかす瑠璃の
つぼにいりて宝ぬけたる大象一如石金張ぬ樑
金色のごとし小晶の花この雜寶をもて莊
嚴ぬきりをもてやうにしをしき

きをもて流をなしたる八相成道をもとせる釈迦仏の
摩耶の右脇よりなれる難陀跋難陀二龍王
ゆあいをもてゆけばすなわちすなわち
ゆて浄飯王ぬまれたまふ　ぬまれたまふ
はすなわち文殊菩薩をもとせる
ぬこの花ひらのひとめをもて百合を金
つまのうちにいさらをもとめ
国をやしをもとめて百支いきをしてー
なりぬ　浄居天変ーて　病死をはりてぬ
四年十九の壬申ぬ年二月八日の夜ぬ
ぬをもてじやうのにるをもとめて
ぬのたまはしを車匿のみをもて
ぬのたまはしを使人をもて宋安ぬ　ゆきて

[illegible]仏摩成道時菩提樹の下にて
と教化したまひ給ふ娑羅双樹の涅槃のときの
[illegible]と云ひつたへたる花はほとけの教化
かたちかとうとしたふとし清天雲もゆけ
[illegible]とうとしたふとし金銀瑠璃と地よりやうやく仏を
[illegible]
大日如来[illegible]
[illegible]宝荘厳[illegible]瓔珞上下
四方[illegible]
[illegible]中央[illegible]上[illegible]
[illegible]百[illegible]
[illegible]八万四千[illegible]
[illegible]摩[illegible]

と[illegible]
[illegible]宝瓶の方は荘厳[illegible]如来[illegible]
[illegible]報應化[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]八一万[illegible]菩薩[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

寂とりて、もとは仏代行のくれ[illegible]とりてかた
つとなれば宍舎ともふべき[illegible]ものをとをせの世
[illegible]さやうくんしーとり所ゝ寂惚惰蓋しけ[illegible]は
をりを邪ともれを寂とりて合成をりこの[illegible]やと
らふるは[illegible]むとの何をりふるのほふかの[illegible]邪
[illegible]さふるりのさ[illegible]ふすれをりかを宍舎を仏の
[illegible]を金剛師をとれのなゆんとるをしをり[illegible]仏
同はの人ゝ日ふかるをりをすくこかーらーうを
の[illegible]をりすくるーうさふ[illegible]の邪をりあよ
[illegible]らしのらうをーうてるーりはつへれて
すかの天竺の祇園精舎の地の事ふ伝行世尊是生
滅法を滅を已寂滅為楽とを少粗をるをやをん伝

この法の邪とすてくるをりをいの浄土をを
を[illegible]法のこをはをを[illegible]ををををるく
てし南のはをりはふに和るの行の弾指の行の
度を山陽るるの西伝邪ををと初の代はは廿余ふ
ををのほの伝をもの[illegible]ををけはくく
ひーさとは廿人ばくををををりをるりをは
の人ゝうはをくーくて常をををを必
のかをのをもをしーつををけをのり
さ西ををくーうをををををををををり又
いをけををををを余ををりのふは師の
三三人ゝて后[illegible]をををををををを
かのの人ゝはををををををををををを又

[illegible]

[illegible]

[illegible]

心ゆきてうらぶれそこなふ事はてしなし
しかるに雀あり迦陵頻伽のごとくにして
毒虫をくひ殺す歌詠する事
天人聖衆妓楽歌詠する事
又琴をひきて管絃奇妙曲をなす如の
遊戯する事
はたらきて行
ゆくえをしらずふやうやうしたがひ道
ゆくえをしらずして海上二十ヨウセ
の香をうしなひてうえ死のうらへ
ふたたびもとのごとくにかくしたる信の
樹林のあるところのうちにかくれ
こしらへくしたがひ道をとりて

てうもつ　こ　ゆ　ものく
（遠方）　（所信）　（所）　（所）
なをてらいはせ　なをてらいはせ　なをてらいはせ
つまてさ　ゆくらいをてしてはさるんの　（坂子）　なれるこの
京　なれ　光　春　道　をてらいて　事　こそ　れるゆ　て　を
ゆ　て　ゆ　ハ　ら　ま　こ　を　ぬ　ふ　ふ　一　京　ら　ハ　れ
ら　さ　ら　ら　句　も　ら　ら　を　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら
を　て　ら　せ　ま　ま　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら
ら　ら　ら　ら　ら　ら

法成寺

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

こゝろゝめはとめてもとゞまりてやすらの
の月かゝとゝ見るんとうつす俤をこゝのゝ月かゝ
はなをめてゝ見るさ見るのゝ月かゝは後世
と毎月をゝ見ゝいてゝ不切ゝてゝのゝしるとす